

## 福島大学資料研究所活動報告書

所 長 黒沢 高秀

### ○研究目的

福島大学で所蔵している研究資料や郷土資料の適正保管や活用を図るとともに、図書資料や各種情報と結びつけ、教育・研究・地域との連携を推進する。

### ○研究メンバー

＜研究代表者（研究所長）＞

黒沢高秀（共生システム理工学類・教授）

＜研究分担者（プロジェクト研究員）＞

菊地芳朗（行政政策学類・教授）

阿部浩一（行政政策学類・教授）

塘 忠顕（共生システム理工学類・教授）

徳竹 剛（行政政策学類・准教授）

＜連携研究者（プロジェクト客員研究員）＞

澁澤 尚（人間発達文化学類・教授）

小松賢司（人間発達文化学類・准教授）

笠井博則（共生システム理工学類・准教授）

難波謙二（共生システム理工学類・教授）

鍵和田賢（人間発達文化学類・准教授）

### ○研究活動内容

#### 大学貴重資料の整理・活用

昨年に引き続き、経済経営学類と協力して、福島高等商業学校資料を整理し、目録及び資料概要に関する報告書を完成させた。

FURE（福島大学うつくしまふくしま未来支援センター）資料保管室から福島大学貴重資料保管室への資料移転を支援すると共に、戦国大名伊達氏の研究で著名な小林清治名誉教授の旧蔵資料の再整理を継続した。

福島大学貴重資料保管室植物標本室 FKSE では 2019 年 4 月 1 日～2020 年 3 月 31 日の間に、のべ 8 名の学外の研究者の訪問利用があった。また、行政から 3 件と研究者から 4 件の標本データベースのデータの照会に対応した。FKSE で管理している標本を用いて、植物のさく葉標本から非破壊的に DNA を抽出する方法を開発した（Sugita et al. 2019）。内容について大学の定例記者会見で発表し、新聞（福島民友、福島民報、いずれも 2020 年 1 月 25 日）や子ども向け科学雑誌（『子供の科学』2020 年 4 月特大号）などに取り上げられた。2019 年 10 月 12 日の台



図1 小林清治名誉教授旧蔵資料の再整理の様子。2019 年 7 月 9 日撮影。

風 19 号の水害で浸水被害にあった植物標本の修復に国内の 8 博物館・大学とともに取り組み、研究所研究メンバーが取りまとめ役を担った。福島大学学内競争的研究資金(19RI025)の助成を受け、過去に寄贈を受けた福島女子高等学校、保原高等学校、梁川高等学校のさく葉標本の整理を行った。

ふじのくに地球環境史ミュージアム企画展「大絶滅 地球環境の変遷と生物の栄枯盛衰」（会期：2019 年 11 月 30 日～2020 年 4 月 5 日）にニホンカワウソの剥製を貸し出しするなどの協力を行った。

なお、今年度は主催展示事業、後援事業はなかった。

#### HP による情報発信

HP（[http://www.sss.fukushima-u.ac.jp/~kurosawa/IUMC\\_Fukushima\\_Univ/fukushima\\_ac.html](http://www.sss.fukushima-u.ac.jp/~kurosawa/IUMC_Fukushima_Univ/fukushima_ac.html)）で本研究所および研究所研究メンバーの活動を紹介するとともに、県内を中心とする貴重資料や関連行事のニュース 12 件などを「お知らせ」欄などに掲載した。

#### 大学貴重資料を活用した研究一覧

以下に 2019 年 4 月 1 日～2020 年 3 月 31 日の間に出版された資料研究所研究メンバーが管理する貴重資料を活用して行われ、資料が出版物内に引用または明記された研究成果の一

覧を示す。下線は研究メンバー、\*は研究メンバー以外により行われた研究を示す。

早川宗志・井原希・根本秀一・茨木靖・小川誠・黒沢高秀。2019. ホシアサガオ, マメアサガオ, マルバアメリカアサガオ (ヒルガオ科) の日本への初帰化年代. 雑草研究 64: 5-8.

\*Mizusawa, L., Ishikawa, N., Yano, O., Fujii, S., Isagi, Y. 2019. Geographic distribution of ploidy levels and chloroplast haplotypes in Japanese *Clerodendrum trichotomum* s. lat. (Lamiaceae). *Acta Phytotaxonomica et Geobotanica* 87: 87-102.

齋藤佑樹・黒沢高秀。2019. 福島県白河大池とその周辺の植物相. 福島大学地域創造 31(1): 133-160.

\*兼子伸吾。2019. 絶滅種? 外来種? 80 年前の標本からイワキアブラガヤの由来を探る. ミルシル 12(9): 11-13.

\*持田誠・池田守・池田順子。2019. 北海道十勝地方からマルミノウルシを記録する. 浦幌町立博物館紀要 19: 13-15.

Sugita, N., Ebihara, A., Hosoya, T., Jinbo, U., Kaneko, S., Kurosawa, T., Nakae, M. & Yukawa, T.. 2020. Non-destructive DNA extraction from herbarium specimens: a method particularly suitable for plants with small and fragile leaves. *Journal of Plant Research* 133: 133-41.

黒沢高秀・根本秀一・山下由美・蓮沼憲二・伊賀和子。2020. 福島県における新たなレッドリスト改訂手順の試みとそれに基づくふくしまレッドリスト (2018 年版) 植物 (シダ植物, 種子植物) の作成. 福島大学地域創造 31(2): 75-86.

#### 大学貴重資料に関する記事や報道

以下に 2019 年 4 月 1 日~2020 年 3 月 31 日の間に発表された資料研究所の活動や研究メンバーが管理する貴重資料に関する解説記事や報道の一覧を示す。

「福島で浸水 植物標本修復」(読売新聞茨城県版, 2020 年 1 月 12 日版)

「押し葉標本に新手法 福島大と国立科学博物館研究チーム 傷つけず DNA 採取」(福島民報, 2020 年 1 月 25 日版)

「標本傷つけず分析 福島大准教授ら DNA 抽出新手法」(福島民友, 2020 年 1 月 25 日

版)

「貴重な標本を傷つけることなく DNA を抽出」  
(子供の科学 2020 年 4 月特大号, 5 ページ,  
斉藤勝司)